



いずみ (第53号)

目 次

職場聖書研究会70年を前にして (NTT・KDD-OB 鈴木 欽也)	2
社会人やっと二年目 (NTT-OB 山田 磨)	6
短歌《主のために》(KDD-OB 西本 修三)	8
数えてみよ、主のめぐみ (NTT-OB 藤川 昌也)	11
合同聖研による主の恵み (KDD-OB 甫足 守朗)	12
手術 (KDDI-OB 村上 透)	16
廬舎 彼誰がとき 夜ばなし (NTT-OB 伊藤 節)	18
『主われを愛す。』(NTTDATA-OB 宮崎 聖藏)	20
『ゆりの花の調べ』(NTTDATA-OB 宮崎 聖藏)	27
信仰生活で恵まれた人生に感謝 (NTT-OB 原 朗)	28
敗戦後70年に思う (NTT-OB 本間 信一)	30
永遠に神を賛美する (NTT-OB 久保田 信義)	32
宝はキリストの中に隠されている (KDD-OB 小松 有也)	34
柳家小三治の衣装哲学とカルヴァンの衣装神学 (NTT-OB 有馬 七郎) ..	36
私の生活の中心 (KDD-OB 佐保 靖幸)	39
アブラハムが義とみなされた根拠 (NTT-OB 福島 勲)	40
2014年度活動報告	43
2014年度一泊研修会スケジュール表	44
各例会でのスナップ写真	45
主にある兄弟姉妹のスナップ写真	49
2014年度会計決算報告	50
個人消息	51
「いずみ54号」への投稿のお願い	52
編集後記	52

(注) 退職時にKDDの方はKDD-OB、退職時にKDDIの方はKDDI-OBと所属表記しました。



職場聖書研究会70年を前にして

NTT・KDD-OB 鈴木 欽也

終戦の混乱と食糧不足の時代だった。昭和22年逓信省の一室で逓信省の聖書研究会は発足した。逓信省は今のNTTやKDDIの前身である。

終戦後、郵政事業と電気通信事業は逓信省というお役所に統一されていた。その後郵政省と電気通信省となり、電気通信省は更に日本電信電話公社と国際電信電話株式会社に分離し、NTTとKDDの呼び名となった。その後民営化でNTTは株式会社となったのである。

当時逓信省は飯倉6丁目という市電の停留所の前にあった。前にロシア大使館があり、その付近は狸穴と呼ばれていた。古めかしいどっしりした5階建てのビルだった。逓信省には電気通信の方を担当する工務局等があり、郵政事業を担当する貯金局や保険局等があった。私は昭和22年4月工務局に入省した。弱冠20才の技官だった。

当時私の勤務したところには大学出の復員将校が戦地から次々に帰ってきて、職場に軍服姿で働いていた。その中に北大出の復員将校の岩館新一氏がいた。彼はクリスチャンかどうかは分からなかったが、聖書について興味を持っていた。また学生徒動員から帰った重光雅実兄という阿佐ヶ谷東教会の会員の方がいた。

私は早速この二人に相談して、聖書を読み学ぶ会を作ったらということになった。そこで重光兄の教会の牧師さんで、高崎毅先生をお招きして第1回の聖書研究会を開くこととなった。昭和22年6月23日(月)のことである。

私達3人は同じ課に属していたので、その課の人や二、三の他の課の人も出席してくれた。私が最初に会の趣旨の様なものを話した。それは、聖書を読み、『靈魂の問題について語りをもって糧となす』というようなものだったと思う。

高崎先生が新約聖書の概論について話して下さった。私達はそれから毎週月曜の昼休みに会を続けた。第1回目は応接室を使わせていただいたが、その後は地下の実験室で行った。薄暗い埃が一杯の実験室で椅子も二、三脚しかなく、殆どの人は立っていた。

月に1回位先生をお呼びしたが、その間は私達が話した。二、三回やっているうちに省内の色々なところからクリスチャンが集まるようになり、メンバーも定着してきた。岩本満作兄、川崎泰助兄らが集められた。この時から岩本兄とは生涯の信仰の友となった。



最初ロマ書をやり、次にマタイ伝に移った。10月6日には岩本兄がロマ書10章についてお話された。当時ご愛労を頂いた先生は上記の高崎先生や鳥居坂の浜崎次郎先生、左内坂の花房飛虎二先生など、又少したったころ浅野順一郎先生にも度々お出でいただきお話を伺った。

最初のクリスマスは昭和22年12月20日に局長の応接室を借りて行った。20名の出席だった。ト部定姉が聖書を読み高橋先生がお話して下さった。先生がドイツ語で「オー道府ウリッヒエ、オードーハイリゲ」と讃美歌を教えて下さったことを思い出す。お芋をふかして皆で食べたが、霊的には幸いな素晴らしいクリスマスだった。

そうこうしているうちに逓信省の他の庁舎でも自発的に聖書研究会が発足していることを知った。東京中央電報局には小田清志兄らが、東京市外電話局には村瀬正雄兄、高桑島生兄、近藤テイ姉らが、通信研究所には田中平次郎兄、藪本忠一兄、松坂泰兄、山田明兄らが、中央学園には誰々が、という具合である。そこで本省を中心に連絡を取り合うこととした。

昭和33年6月から合同聖書研究会を年三、四回持とうということになり、これが今日の合同聖書研究会のはじまりとなった。最初の十数年の間にこの様なこともあって有カメンバーが次々と加えられた。

主な兄弟は稲尾三郎兄、芳賀清司兄、松本常隆兄、近藤富三久兄、本間信一兄、鈴木重雄兄、小田清志兄、露久保定吉兄、原朗兄、小日向憲二兄、村瀬正雄兄、高桑島生兄、小西篤三兄、山田磨兄、西尾穆兄、中村就一兄、山本悌一郎兄、宇草裕一兄など、そして山田磨兄はその後神学校に行き牧師となられた。

姉妹ではト部定姉、矢野竹子姉、鈴木恵美子姉、川崎太美子姉（川崎泰助兄夫人）、永野みのり姉、愉井久江姉、竹内弘子姉、貝塚やすこ姉、植木みどり姉、近藤テイ姉、佐藤和子姉、石黒勝江姉、鈴木てい姉、大沢ゆりえ姉、岡庭貞子姉、石場和子姉、林俊子姉、栗田かつ子姉などなどの顔を思い出す。もう五十年も或いはそれ以上も前なので名前を忘れてしまった方々も多くある。

当時熱心にご指導して下さった牧師先生方は小石川白山教会の藤田昌直先生や千住の方にお住まいの高木幹太先生などで数年にわたって聖書のお話をして下さった。昭和20年代には逓信省だけでなく他の官庁にも同じ様な職場聖書研究会が発足していた。

厚生省には設楽亨兄らが、東京地裁には市川浩兄や浅見洋三兄らが、国鉄には鈴木宏兄らが、労働省には道正邦彦兄らが、郵政省には川崎泰助兄らが、国立国会図



書館には石原義盛兄や藤尾正人兄らが、大蔵省には和田収一兄らが、警察庁には藤木佐田助兄らが、日本銀行には高木正剛兄らが、文部省には絵鳩彰兄らが、その他参議院、復員局などにも聖書研究会があることを知った。

私達は設楽兄、鈴木宏兄、石原兄などと相談して職域大集会を開くこととした。東京在住の前記官庁の職場聖書研究会連合の様な集會を数年に亘って持った。

賀川豊彦先生や矢内原忠雄先生やちょうどそのころICUにいられていたスイスのエミール・ブルナー教授などを講師として招いたこともある。私達のこの様な職場における信仰の交わりが次々と拡大して行ったことはまことに主のお恵みであったと思う。

さて、電気通信省は電電公社とKDDに分かれて行ったが、私は自分の仕事、即ち海底ケーブルの仕事を専門にやっていたので、太平洋横断ケーブルの敷設のため公社からKDDに移ることとなった。昭和36年8月のことである。

NTT本社の聖書研究会はその後久保田信義兄、宮崎聖蔵兄らが引継いでくださった。私は早速KDDに聖書研究会をと、当時新入社員だった甫足守朗兄と後藤節子姉と共に祈った。

KDD聖書研究会は昭和36年11月に大手町局舎で発足した。その後KDD聖書研究会には佐保靖幸兄、座波嘉隆兄、小松有也兄、村上透兄、新井貴行兄、西本修三兄、能勢寿郎兄、安部金一兄、高瀬勝利兄らの有力メンバーが加えられた。そして佐保兄と安部兄は献身して神学校に行き、佐保兄は聖公会、安部兄は教団の牧師となった。

NTTの合同聖書研究会は昭和33年に結成され5年目を迎えていたが、当然KDDの聖書研究会もこれに加わり、NTT・KDD合同聖書研究会となった。(こうしてNTT・KDDIの合同聖書研究会は現在に至り、本日ここに第187回の集會を迎えたのである。)

その後、NTT・KDDからも合同聖書研究会に加わる会員として先に書いた方々のほかに、原田仁四郎兄、星野和平兄、小川徹兄、増満義雄兄、西田利一兄、有馬七郎兄、若生富子姉(第一生命NTT担当)等、最近では藤村徹兄、加藤泰子姉、早坂孝志兄、角田幸子姉、洪寧渉兄など有力メンバーが次々と加えられた。

現在のメンバーで牧師となられたのは、佐保靖幸兄、豊川修司兄、山田磨兄、伊藤節兄、鈴木勉兄、秋山光雄兄、棚橋信之兄、福島勲兄、そして先に天国に帰られた、藪本忠一兄、安部金一兄等である。これらの方々と共にある親しい交わりは私にとって尊い信仰の宝である。



これら合同聖書研究会の集会の講師は別表（いずみ45号別冊）の通りであり、殆んど日本の有名な牧師、伝道者を網羅している。なかには二回三回とお招きした先生もある。その数は百名以上となる。出席者は多い時で三、四十名、少ない時で十名前後である。とにかくこんなにも長く続けられたことは感謝のほかない。

毎年7月には「いずみ」という機関誌が発行される。この機関誌は会員の信仰の交わりのために、第1号はKDDIが合同聖書研究会に加わった後の昭和38年に発行され、本年で53年、53号となる。

25号にはNTT聖書研究会40周年記念号が、29号にはKDDI聖書研究会30周年記念号が、35号にはNTT聖書研究会50周年記念号が、49号にはKDDI聖研創立50周年記念号が、そして来年2016年には54号、NTT聖書研究会70周年記念号（70周年は2017年）が発行予定である。

現在NTT・KDDIの各職場では、夫々聖書研究会が諸事情により休眠状態となっているが、合同聖書研究会はこの様にして続けられている。

また、合同聖書研究会によるクリスマス会や研修旅行会も計画されて信仰のよき交わりが持たれている。今日70年を前にして振り返るとまことに主のお恵みを感じる。

我らは弱く、しばしば倒れそうになるが主が力を与え、勇気を与え給うたと云わざるを得ない。私ごとで恐縮であるが、二十歳の青年は八十八の白髪の老人になろうとしている。

私の弱い信仰が持続できたのは全く主の御憐れみであり、聖書研究会の信仰のお陰である。唯感謝の外はない。最近20年の合同聖研は露久保兄、甫足兄、久保田兄、福島兄らの御愛労によるのであり、私はただ名前のみである。会の詳細は兄弟らの本誌の文を読んで頂きたい。

今後は合同聖書研究会の火が主の御憐れみを得てなお長く続けられる様祈ると共に、若き信仰の友がNTT・KDDIの中に起こされて、この困難な時代にあっても、なお主の示し給う生きたあかしを担わさして頂きたい。いや主が必ず御自身の栄光のため、なさしめ給うと信じるものである。

主の憐れみかぎりなく そのまことよろづ世におよぶ。(詩100:5)

なお、この時にあたり70年を見ずして先に召天した、川崎兄、近藤兄、高桑兄、村瀬兄、稲尾兄、小田兄、藪本兄、芳賀兄、小西兄、安部兄、能勢兄、座波兄、近藤テイ姉の先輩方の信仰を偲ぶものであります。



社会人やっとな年目

NTT-OB 山田 磨

あなたがたは、地の塩です。…… あなたがたは、世界の光です。

(マタイ5:13, 14)

主の御名を賛美いたします。小さな者のため、合同聖研の皆様の背後の尊い、篤きお祈りに心から感謝いたします。

インマヌエル千葉教会で1年間の教会での献身者生活をして、神学院での3年間と伝道の畑に遣わされた43年間を合わせると47年間、がむしゃらに、無我夢中になって学びと伝道・牧会に専念してまいりました。



去年、現役牧師を引退して、社会人1年生になり、この4月にやっとな社会人2年生になりました。勿論、献身する前まで社会人ではありましたが、全面的な社会人ではありませんでした。と言いますのは、中学を卒業してからずーと夜間高校、夜間大学（今は夜間といわず二部というそうですが）に通っていたので、昼間は仕事、夜間は学校、救われてからは聖日は教会出席をしていましたので、職場や学校や地域社会での仲間とお付き合いなどする時間はありませんでした。

それが現役牧師を引退し、この能美市大浜町に住むようになって、初めて全面的社会人になって、世の中の一般常識に欠けているからです。そのため、急にこの土地の地域社会のルールを学ばねばなりませんでした。

昨年までは、私たちは教会に住んでいましたので、うちは教会ですのとか、私は牧師ですから…と言って言い訳ができたのですが、それが出来なくなってしまいました。その上、加齢のため体調の変化があります。

引退後に数名の方から、「先生何か趣味を持たれたらいいですよ。…ポーとしないように気をつけて下さい。…町の諸行事に積極的に参加された方がいいですよ…」などなど。いろいろアドバイスをいただきました。そこで、多くのことを学んでいます。

(1) 主は私たちを「地の塩、世界の光」としてこの世に派遣して下さいました。遅ればせながら愛兄弟と同じ立場になった事を自覚して、愛兄弟に教えてもらうことを心がけること。すなわち、語る側から聞く側にまわること。

(2) クリスマンであることを旗印鮮明にして集会出席に妨げられない程度に、隣人との冠婚葬祭や他のお付き合いをしていくこと。



(3) 体調を整えること

昨年、直接伝道・牧会を離れて、急に今までの奉仕の疲れが出たのか分かりませんが、急激に身体全体がガタガタに崩れかけたような支障が出てきました。耳が遠くなり、疲労感、倦怠感が出て、疲れがとれるのに時間がかかるようになり、歯科医、皮膚科医にお世話になり、補聴器も必要になりました。

(4) 意識の自覚の必要

①メモの必要

メモしなくても、早朝お祈りして立ち上がり、やるべきことが次々に出来たのに、物忘れがひどくなり、お祈りの後で、一日のメモが必要になりました。時々そのメモを忘れてしまうので困りますが。

②行動の意識・確認の必要

いちいち面倒なのですが、行動を意識してすること。今までは無意識でやっていて、それが出来たのに出来なくなりました。朝、顔を洗う時、メガネをはずし、「棚の上に置いた」と指を指し、意識して確認して置かないと、顔を洗って、タオルで顔を拭いた途端、メガネを架けようと手を伸ばしますが、その先にメガネがないのです。「あれ、今ここにメガネを置いたはずなのに、どうしてここに無いのか」となってしまいます。あったはずのものがそこに無いのです。

昨年から家内も私も、忘れ物、探し物が多くなりました。しかも、それを探すのにかなりの時間がかかるようになりました。



③そのために物品を整理することに心がけること

書斎もタンスも引き出しも整理してしまっておくこと。

④忘備ノートを作ること

そのノートに大切なことを書き留めておくこと。通帳類。免許証や火災・国保・自動車任意保険等のNO、遺言書など。

⑤死と御国への備え

これが一番大切な問題です。私たちの命は主の命の袋にしまわれていますので（第1サムエル25:29）恐れも不安も一切ありません。すでに行き先は主が備えておられるのですから。ただ御救いに預かった恵みをどのような形で表せばいいのを探っています。この他に、何か良い知恵がありましたら教えていただければ感謝です。

ですから、私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。（第2コリント4:16）

74歳になり、主から私個人に与えられた使命の終わりが近づきつつあるように感じてきました。去年アガペーやいずみに載りましたものを小さな証し集にまとめましたが、只今は、今までの主の御奉仕を振り返って、50冊近い日記帳を読み返ししながら、マイナス面を加齢のせいとせず、良きは主に帰し、悪しきは自分に帰し、ありのままの小さな自伝を昨年からまとめ始めています。

まだ半分にも達していませんが、何とかまとめることが出来ればと思っています。昨年までは、教会の先頭に立ち、小さな群れを緑の牧場に導かねばなりませんでした。今はもものつがいをはずされたヤコブのように「私は、私の前に行く家畜や子どもたちの歩みに合わせて、ゆっくりと旅を続け」（創33:14）ています。

短歌 《主のために》

KDD-OB 西本 修三

- 主のために われは生きて死ぬもよし
主のものなれば 御名をたたえて (ロマ14:8)
- この世では なやみがあるが 勇気だせ
われすでに 世に勝っているなり (コリ16:33)
- キリストのみこころ聞いて聖書よみ
いのちの御言葉信じてゆかむ
- 讚美歌をこころをこめて歌うとき
神のみ崇え崇めて拜す
- 信仰の導き手なる完成者 イエスを仰ぎみて
走ってゆかむ (ペテ12:2)
- キリストの平和 世界を支配して
憎しみ争う人人なだめむ (コリ13:15)
- 福音をわれ恥とせず 信じる者
すべてを救う 神の力なり (コリ1:16)
- 胸に秘め 人に言えない聖所あり
憂い悲しみ 主は知りたもう



ゲッセマネ 主のみ苦しみ 計りえず
わが罪のため 祈りたまえり (マルコ14:32/ルカ22:32)

ヨブ記よみ 神の義求めて苦難うけ
サタンと戦う 信仰問われぬ (ヨブ記1-2章)

○受難節 千枝子召されて ^{みとせ}三歳たち
記念礼拝 ^{つま}亡妻をしのんで

受難節 妻急逝し 呆然と
在りし日しのび悲しみふかし

悲しみは主の慰めを身にうけて
涙にむせび 耐え忍ぶなり

遺影みて ^{つま}愛妻をしのんで祈りつつ
家族の救い み手にゆだねぬ



復活祭教会全体聖餐礼拝のあと長男和嗣(53歳)と共に
(大阪教会聖堂にて)

こうこう
○皓皓と八十八夜 月さやか

米寿をむかえ 幸せなるかな

やそじ
八十路えて弱まる足腰おもくなり

杖もて歩く 米寿の坂ごえ

やそじ
八十路えてめぐみの余生 大切に

米寿むかえて 主に感謝せり

わが余生 いつも喜び感謝して

いのれるごとく人に仕えむ

五月晴れ 米寿をむかえれいはいちゆう礼拝中

祝いの電話 子からかかれり

(2015年5月15日 誕生日 句作謹書)



数えてみよ、主のめぐみ

NTT-OB 藤川昌也

妻を天国に送り、3年が過ぎました。なかなか人生を歩むことの大変さをしみじみと味わい、寂しさ、これが主のご計画なのかとも考えるのでした。

しかし、ある主日礼拝で「数えてみよ、主の恵み」と讃美して、自分の受けている主の恵みを指折り数えてみました。なかなか五つまでやっと数えられました。

84年も生かされてきていて、現在があること。年金生活で平常の生活が支えられている、終いの住み家の心配もない、介護の世話を受け、健康を支えられている。そんなところかなと考えるのでした。

しかし主の恵みは限りなくあるのではと、思い直しました。日常の生活一つ一つが「主の恵み」ではと気づいたのでした。

東日本大震災でたくさんの方たちが避難生活を余儀なくされていることを知るとき、自分は何と主の恵みの日々を与えられているのだらうと、感謝するのでした。

寒い朝起きて、朝食の準備から一日がスタートします。限りなく続く主婦の生活です。スーパーに何を食べようかと考えながら、買物を済まし、袋を提げて帰路。なぜこんな事をしなければと考えるのでした。そんな思いがふっと出てしまう。

心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。

(ヨハネ14章1節)

聖書のみ言葉を思い出し、気持ちを切り替えるのです。

与えられている人生の歩みは、「数えてみよ、主のめぐみです。」

いつも喜び、感謝を持って歩んでいきたいと願っています。

NTT・KDDI合同聖書研究会の皆様、主の豊かな恵みがありますようお祈りします。



(常盤台バプテスト教会員)



〔望みも消えゆくまでに〕(新生讃美歌103番／聖歌604番他)の(おりかえし)の一部

ひ と つ づ つ か ぞ え て み よ 主 の め ぐ み

合同聖研による主の恵み

KDD-OB 甫足 守朗

来年の2016年（平成28年）は、鈴木欽也兄が発起人として1947年（昭和22年）6月、逓信省内に職場聖書研究会を発足させて以来、ちょうど第70年目の記念の年（70周年目は2017年）にあたり、人の一生にも匹敵する幸いな70年の歩み（古希に相当）が継続されてきたことを顧みるとき、実にその恩寵の大きさに感嘆させられる。

ここに職場聖研70年を直前にして、来年の第70年記念（再来年の70周年記念）を迎える準備の年としてその歩みを振り返っておくことは有益であり、本当に主の導きと恵みによるものであることを関係者と共に感謝する者である。

この逓信省時代に発足した聖研の火が原点となり、今日のNTT・KDDI合同聖書研究会が存続しているのであるが、逆に言えば、合同聖書研究会として歩んだからこそ継続が可能であったとも云える。

何故ならば、個別の聖書研究会があったとしても、人が変わり組織も変遷して行く中では、確固とした体制を維持することは難しいからである。

NTTの場合も、逓信省⇒電気通信省⇒電電公社⇒NTT（株）と変遷し、KDDの場合も、逓信省を母体として、NTTの流れの中で電電公社から分離してKDD（株）となり、その後、KDDI（株）となっている。

本来個々のものが集まって合同体を形成するものであるが、職場聖書研究会の場合は、少人数のクリスチャンの存在と激変する組織の変動の中では、単独の存続は困難であり、現に我々の合同聖書研究会の大半はオールOBとして存続していることを見れば、単独では継続出来難いことも別組織の合同であれば存続できることを示している。これは神の知恵であったと今更ながら思い知らされる。これからは今OBを中心として合同聖研の中で灯されている聖霊の火が逆に現役の組織の中に再点火されることを期待したい。

さて、逓信省時代に職場聖書研究会が設立された経緯については、鈴木兄が詳述しているところであるが、当時の電電公社内の各局舎で発生した聖研メンバーが昭和33年に合同の初会合を持ち、同36年にKDD聖研が誕生し、翌37年に合同聖研のメンバーに参加したとき以来、強力な合同聖研の結束へと導かれたことを心から感謝致したい。



KDD聖研は、昭和36年入社私のと海底ケーブルの専門家として同年8月電電公社からKDDに移籍された鈴木兄が、私と同期入社の早川節子姉（現、後藤姉）の紹介により出会った時に生まれたもので、同年11月から発足した。

祈りと祝福のうちにスタートしたKDD聖研は、翌年3月には機関誌「インマヌエル」を創刊し、これは第7号まで続いたが、合同聖研相互の機関誌「いずみ」が昭和38年6月に創刊されたことにより中止したもので、「いずみ」発行の先駆けとなったことは幸いであった。「いずみ」の創刊当初は私も編集委員に關与させて頂いたが、その後は50号まですべて露久保定吉兄が編集発行を担当され、その労の大きかったことを思わされる。

合同聖研に対するこの「いずみ」の果たした役割・貢献は甚大であったと言う事が出来る。合同聖研の会合と「いずみ」を通しての証の数々は相互の信仰を鼓舞し、相互の愛を主にあって深めさせていただく活力源となってきたと感謝している。51号からは編集発行に長けた福島勲兄が引継いで下さり、これまた大いなる喜びである。

「いずみ」の発行では、昭和38年(1963)の創刊号以来、25号(1987)/NTT聖研創立40周年記念、29号(1991)/KDD聖研創立30周年記念、35号(1997)/NTT聖研創立50周年記念、49号(2011)/KDDI聖研創立50周年記念と発行してきた。そして、来年の平成28年(2016)には「逋信省聖研発足70周年記念」を迎えようとしている。これはNTT聖研創立70周年記念の年でもあり、KDDI聖研創立55周年記念の年でもある（別表参照）。

このような職場合同聖研の歩みを振り返ると、クリスチャンが少ない日本で、職場、企業において主の証人として生きていくために、主が導かれ設けられた恵みの場であることを思わされ、そのメンバーに主によって予め選ばれていたことは驚きである。

この世の中で主に救われ選ばれた者としての大事な使命は、キリストの言葉に励まされ、神と人を愛して信仰によって生きていくことであるが、職場において同信の友を得ることは、何にも優る得難い神からの人生の宝であると思わざるを得ない。

特に主が求めておられることは、信仰の伝達と継承であると思うとき、我々合同聖研の長年にわたる恵みの伝承は素晴らしい賜物であったことは間違いない。しかし、職場合同聖研の現状を見るときに、現役のメンバーが積極的に参与する中で、OBが力強くバックアップするような姿勢が望ましいと思われる。



ペンテコステの聖霊降臨の出来事でも、新約聖書の使徒行伝第2章では、ペテロの説教の中で、預言者ヨエルの預言を引用しているが、ヨエルが預言した言葉と、聖霊を受けた新約の弟子たちの言葉には微妙な差異があることに気付かされる。

ヨエルは

老人たちは夢を見、若者たちは幻を見る。主の大いなる恐るべき日が来る前に、…

と預言したが、ペテロたちは

若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。主の大いなる輝かしい日が来る前に、…

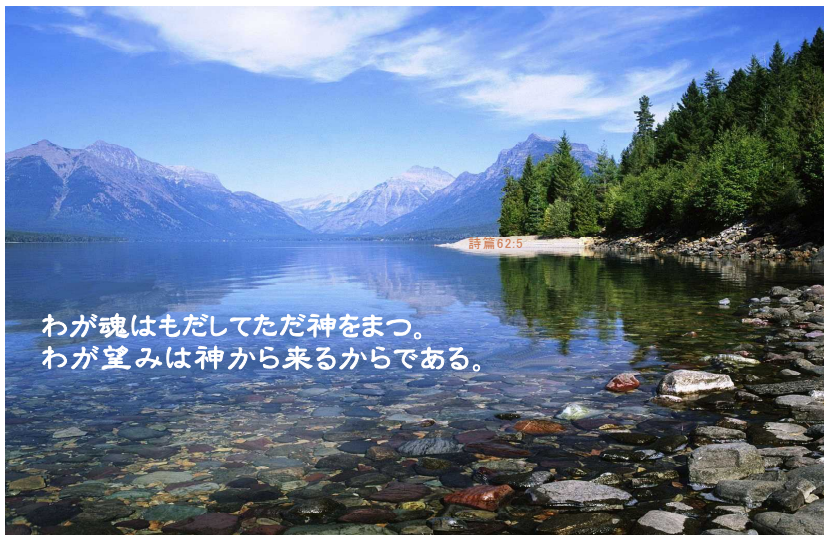
と順序が入れ替わり、視点が変わっていることに気付かされる。

同じく御霊に導かれて神の言葉を語ったに違いないが、新約の時代においては神が期待しておられる力点が異なってきたらと思わざるを得ない。

聖霊が降った後の時代においては、若者たちの世界宣教の幻が先行し、老人たちが夢で後追うような姿勢となり、主の再臨は恐るべき日以上の、輝かしい日の到来となったのであろうと考える。

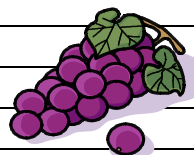
職場における聖書研究会、合同聖研の使命は、まさに再臨を前にしてその輝かしい日の到来のために、時を生かして主のことを知らせ、すべての人が救われるようにと祈り、執り成していくことにあるのではなからうか。

NTT・KDDI合同聖研の働きが、少しでもその役割を果たし、主に栄光を帰す存在となるならば誠にさいわいである。



NTT・KDDI合同聖研の変遷

		NTT	合同聖研	KDDI	備 考
1947	昭和 22				逋信省時代 鈴木兄 聖研発足 第1回目(1947. 6. 23)
1949	" 24	聖研継続			逋信省⇒電気逋信省
1952	" 27	聖研継続			電気逋信省⇒電電公社 (NTT)
1953	" 28				KDD(株)発足
1957	" 32	10周年			
1958	" 33		初会合		第1回目(1958. 6. 7)
1961	" 36			聖研発足	第1回目(1961. 11. 1)
1962	" 37				KDD、合同聖研第11回目に合流
1963	" 38				「いずみ創刊号」の発行
1967	" 42	20周年			
1971	" 46			10周年	
1977	" 52	30周年			
1981	" 56			20周年	
1985	" 60				電電公社 (NTT) ⇒NTT(株)
1987	" 62	40周年			「いずみ 第25号」 NTT聖研創立40周年記念号
1991	平成 3			30周年	「いずみ 第29号」 KDD聖研創立30周年記念号
1997	" 9	50周年			「いずみ 第35号」 NTT聖研創立50周年記念号
2000	" 12				KDD(株)⇒KDDI(株)
2001	" 13			40周年	
2007	" 19	60周年			
2011	" 23			50周年	「いずみ 第49号」 KDDI聖研創立50周年記念号
2015	" 27				※現在 「いずみ 第53号」編集中
2016	" 28	<u>第70年目</u>		55周年	逋信省聖研発足70年記念 「いずみ 第54号」記念号発行予定
2017	" 29	70周年			NTT聖研創立70周年記念 「いずみ 第55号」記念号発行予定
2018					
2019					
2020					
2021				60周年	
2022					



手 術

KDDI-OB 村上 透

私の住んでいる座間には、自然が豊かに残っている谷戸山公園があります。里山を地主さんが残してくれ、それを神奈川県が、県立公園に指定して維持をしています。遠方からハイキングに来る人もいます。望遠レンズでバード・ウォッチを行なっている中年の男性、起伏のある道をマラソンで走っている若者、水辺で遊んでいる子供達、犬と一緒に散歩をしている婦人…。其々が、自分にあった方法で、自然を楽しんでいます。



バードウォッチング(水鳥の池)

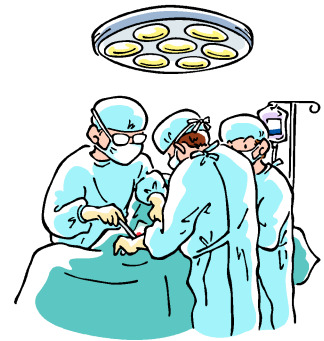
私は、体力維持のため、1時間のコースを自分で造って歩いています。特に冬は、12時頃になると、家の居間が、近くに立った高層マンションの日陰になってしまうため、その時間になると谷戸山公園に歩きにいきます。5月は、新緑が美しく、静かな森の中で鳥の音が響いています。公園管理者が枯れた木をチェーンソーで切り倒し、伸びた枝にロープを木にかけて枝落としをするなど、手入れが行き届いて行なわれています。自然と人間が共生できるように、適度な自然の管理は必要なことです。

自然も放置しておけば、人間の手に負えなくなります。また、焼畑農業のように自然を破壊しつくしては、砂漠化を招き、地球の温暖化を促進していきます。神から造られた被造物の管理を委ねられた人間は、適切に自然を管理し、許された範囲でこれを利用して、後代に自然を残していく知恵が求められていると言えるでしょう。原子力発電の再稼働が迫っていますが、原発事故が起これば、人体に取り返しのつかない悪影響を与え、広範囲の地域が汚染して使用できなくなること、核廃棄物を適切に処理することができないことから、これを使用しない政策を選択すべきです。福島原発事故という大惨事を起した教訓を忘れずに、正しい選択をすることがこの時代に求められています。人間が管理できない技術は、たとえそれが経済的に有効であっても、手を出さないという、責任ある大人の選択ができるか、日本人が問われているのではないのでしょうか。

2月に尿管結石と腎結石の手術を行ないました。人間の体も、適切な手入れが必要です。30代のときに、尿管結石で激痛が走ったことがありました。石が流れ出た後も、シュウ酸による石が溜まりやすい体質のため、その後何年かたって、会社

の健康診断で腎臓に石があることが発見されました。健康診断で全般的な講評をしてくれる医者（専門医ではない）からは、直ぐに手術をする必要はなく、痛くなったら医者にかかるように言われて、そんなものかと、特に気にかけることなく過ごしていました。人間ドックを受けるたびに、泌尿器科の専門医に一度見てもらった方がよいと指摘されていたので、2年前から、フルタイムでの仕事を終え、少し時間もできたこともあり、特段の痛みはなかったのですが、念のため総合病院の泌尿器科の専門医の診断を受けることにしました。専門医から言われたことは、石が2センチ位に大きく成長しており、尿管を塞いでしまっているのです、右の腎臓は機能していないこと、このまま放置しておけば、腎臓の機能が死んでしまうので、石を取り去る手術が必要であること、石が小さい場合には薬で溶かしたり、外からの振動で石を破碎することもできるが、これだけ大きくなってしまうと、手術して取りだすしか方法はないことが告げられ、その手術は、腎臓に穴を空けて石を取りだす難しい手術なので、泌尿器科の専門の病院に行くようにと言われてしまいました。そんな大ごとになるとは思っていませんでしたが、紹介状を書いてもらい、泌尿器科の専門の病院で手術を受けることを決断しました。

マナイタの鯉となって、手術台に乗るのは、これで2回目だったので、手術自体については、それほど心配ではありませんでした。お医者さんの上に神様が働いて下さることを祈り、手術台に連れていかれました。全身麻酔をした上での手術なので、手術中の記憶はなく、麻酔から覚めると手術は終わっており、破碎された石を見せてもらい、無事守られたことを神様に感謝しました。



体の中に異物である石があることを知っていても、大丈夫だと、自分の勝手な判断で放置していれば、やがてそれが、取り返しのつかない片方の腎臓機能の死という事態を招いてしまうところでした。このことを通して、人間の罪も同じだと思わされました。御言葉を聞いて罪人であることを頭で知っているだけで、イエス様のもとに行かなければ、滅びの道に進んでいきます。罪のために滅んでしまうことを本当に厭い、そこから逃れたいと心から願い、そのために来られたイエス様を心に迎えて受け入れていく時、罪からの解放が与えられるのです。

『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世の来られた。』ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。

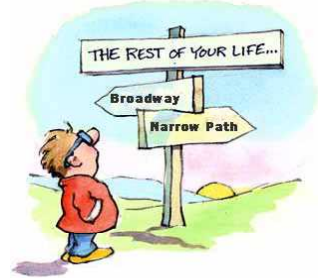
(第1テモテ1:15)

ろ し や か ほ た れ よ
 廬舎 彼誰がとき 夜ばなし
 てん しやうせつ いとう たかし
 NTT-OB 天 翔節 コト 伊藤 節

せま もん ほそ みち
 — 狭き門・細き路 (新約聖書マタイ7:13-14) —

① 狭き門・細き路は

生命を賭して護れる主イエスが羊の門、
 万のものに憎まれ嫌はれ 此の世より
 棄てられたる主イエスがゴルゴタへの路、
 万のものは及び事能はぬ低さが極なる
 十字架へ降行ける主イエスが謙讓の路、
 黄泉より甦れる主イエスが生命の路なり。



じつかい よ きだめ よ ならひ
 ② 十誡はじめ 世が定 世が習 より、

身を正せども 責めらるれども、
 猶はみ出づる わたくし節は 落零れ、
 主イエスに拾はれ 主イエスが身内、
 永遠の生命を われ持てば、
 われ罪の隘路に落つれども
 われ主イエスの名を呼べば
 われ主イエスに贖はる、
 コイノニアこそ力なれ！
 われ主イエスのものなれば、
 万のものに憎まれ嫌はれ
 此の世より棄てらるる者なり、
 われ主イエスが苦難に与らむ。



くびき お
 ③ 主イエスが軛を われ負へば、

われ 陰言に 射目人の目にへこたれず、
 ひもじき日々にくたばらず、
 心身共に平安 常に生り、
 地上が今を 「マラナ・タ」 念じ
 生くるなり、されど尚 われ行着かまほし
 否を否 然りを然りと のみ言ふ 極まで。



④此の狭き門・細き路こそ
われにとりては われを贖ふ門、
われを恵む路、 われを癒す路、
甦れる主イエスが生命にわれを繋ぐ路なれ！



⑤此れこそ
狭き門・細き路の秘訣なれ！
インマヌエルの 幸なれ！
ああ 此の秘訣 此の幸、
主イエス宣ふ「傳へよ」と、
われ 此の言にぞ 主イエスにぞ 従はむ！
溢るる喜び 溢るる感謝 溢るる祈 は
「イエスは主なり！」ぞ！

(証② 2014.4.9 天翔節コト伊藤節)



『主われを愛す。』

NTTDATA-OB 宮崎 聖藏

【讚美歌】 169番「主われを愛す」

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 主われを愛す、主は強ければ、 | 3. みくにの門を ひらきてわれを |
| われ弱くとも 恐れはあらし。 | 招きたまえり、いさみて昇らん。 |
| わが主イエス、わが主イエス、 | わが主イエス、わが主イエス、 |
| わが主イエス、われを愛す。 | わが主イエス、われを愛す。 |

言ひたまふ『わが恩恵めぐみなんぢに足れり、
わが能力ちからは弱きうちに全うせらるればなり。』(コリント後書12:9a)

『とこしえにいます神はあなたのすみかであり、
下には永遠の腕がある。』 (申命記33:27a)

【短歌Ⅰ】 聖劇の 馬槽まぶねのなかの あかちゃんは
イエスの役と 知らず眠れり

聖誕祭の子供達のクリスマス劇。馬小屋のなか、お生まれになった主イエス・キリストが、ヨセフの役とマリアの役と家畜たちの役の子供達に囲まれているシーン。讚美歌『きよしこの夜』が静かに、荘重な通奏低音とともに、バックミュージックとして流れている。まぶねのなかには、本物の赤ちゃんが動員されていて出演しているのだ。主役の救い主イエス・キリストの役とは知らないで。なんとすやすや眠っていることか、幸せそうに……。



【短歌Ⅱ】 倒れては こぼるるなみだに 口ずさむ
ひとつ覚えの『主われを愛す』

若い頃病に倒れた。20代半ば、原因不明の難病である。入退院を繰り返した。現在も続いている運動神経と知覚神経の異常。生涯癒えることの無い薬害の病状である。

その後遺症は今も根強く残っている。痺れしび、痛みが辛い。(…ここで「辛」と「幸」

の漢字がよく似ておりますから、痺れ、痛みが幸いと読み違えられるかもしれません。しかし、それでもよいのです。痺れ、痛みが、鉛の重圧感が酷くて、私はいよいよ、ひたすらに主の聖名を呼んで砕かれつつ、祈るのでありますから。…主のご臨在を身近に感じながら。)辛くて力も出せなくて、こころは弱り果ててゆく。運動神経は歩行訓練のリハビリの努力によって、僅かにでも回復してきてはいるが、知覚神経異常は一生治ることは無い。症状は全く変わらない、という状態である。

初句の『倒れては』を『挫けては』という表現もあり得るのであるが、この短文の内容は、心のことのみならず、身体のことをも語っているのである。歩行訓練中にどのように注意していても、躓いてこけてしまう。注意しながらゆっくり歩いているときにも、実際に倒れこむのである。身が振れるような痛みとともに…。運動神経もやられているが、それ以上に、生涯消えることのない知覚神経異常が辛い。

絶望のなかで聖書を読んだ。キリストがこの地上にお生まれになる。病を抱えている人たちがキリストのもとに集まってくる。そして、福音書には、驚くべき記事が書かれている。キリストが大勢の病人を盲人を足なえを癒されたというのだ(マタイ11:5)。この私もなんとかしてもらえないのだろうか…。キリストに癒して戴くために…聖書を読み進んでいった。『……悲哀の人に^{かなしみ}して病患^{なやみ}をしれり。』(イザヤ書53:36)(主は病をご存知なのだ。この私も癒やしてください、主よ。)と祈りながら。…これは預言者イザヤによりて『かれは自ら^{わづらひ}我らの疾患^{ことば}をうけ、我らの病を負ふ』と云われし言の成就せん為なり(マタイ傳8:17)。

リハビリのとき、神経の正常なフィードバックが無いので、不安定な状態で倒れる。そのとき、キリストに^{すが}縋り付こうとする。辛い症状・病状そのままの状態^{つら}で主に倒れこむのである。このことを、存在をあげて実感してきた。そのとき倒れこむ先は、倒れこむ相手は主。主イエス・キリストご自身の腕のなかに倒れこむのである。

礼拝のときの信仰告白の『使徒信条』のなかに、十字架につけられ、死にて葬られ、黄泉にくだり…を唱えるときに、私はいつも胸が熱くなる。主が磔殺されたのち地獄にまで降られたのだ。主の十字架の^{みわざ}聖業というものは、何という人間の想像を絶する、救いのための痛ましい手続きであることか。

日々、歩行訓練で病院の廊下に、道に、痛みとともに倒れこむのであるが、心のなかでは、主の^{みうで}聖腕のなかに、主ご自身に、その^{ふところ}懐のなかに、倒れこんでいるのである。



申命記33:27a『とこしえにいます神はあなたのすみかであり、下には永遠の腕がある。』この聖言みことばのゆえに、そのまま倒れ込んでいてもいい。それでいいと大きくため息をつく。痛みや辛さの知覚神経異常は消えていなくとも、主の永遠みうでの聖腕のなかに倒れ込む。生涯癒やされることはなくとも。

今日も、ただ主を仰いで、ひとつ覚えの讚美歌、『主われを愛す』を歌うのだ。くたびれて倒れていても、主の聖腕みうでのなかに憩い、平安が訪れてくることを祈りつつ…。感謝しつつ、『わが恵み汝に足れり』の聖言みことばを抱いて……。



『…御恵みめぐみの増し加はり、感謝あらわいや増りて
神の榮光の顕れん為なり。』(コリント後書4:15b)

【短歌Ⅲ】 リハビリの 痛みのなかに かなしみの
祈りに沈む 聖言みことば抱きて

【短歌Ⅳ】 振り向けば すべてがめぐみ『ピア・ドロローサ』
辿り来たりし 残光のなか

闘病生活の人生を送りながら、入院中も、退院の後も、リハビリに励み、その後、ついに奇蹟的に復職することができた。病休や年休を使い果たし、そのあと時間短縮勤務を続けながら休養をとり、多変量解析の専門技術のノウハウを持ったSE（システム・エンジニア）としての仕事に励み、なんとか卒業（退職）まで辿り着くことができた。主に感謝。まさに、主が起こしてくださった奇蹟である。振り返ってみると、総てが神のみ恵み、憐れみであることが、身に滲みて分かってきた。主の憐れみの深さを、心の底まで、魂の深みまで悟らされたのである。

『ピア・ドロローサ』：悲しみの道。主イエス・キリストの足蹟たどを辿りながら生きてきたと思っていたが、真実には主に担になわれて、運ばれて、ここまで辿り着いてきたのである。そして消え入りそうな光のように思われる、残光と表現してはいるが、それは、底光りのする、燦いぶし銀のように輝く闘病の人生いのちの生命しやうの光なのである。実際、真に躍動する生命いのちの漲る、輝く人生みなぎの旅路へと導かれ、止揚という形のなかで、主の聖業みわざが鮮やかに起こされてゆく。生かされてゆきながら、生き抜いてゆこうとする存在へと造り変えられてゆく。十字架と復活によって与えられた、生命いのちの光のなかを、雄々しく生きてゆくことが、許されていることを実感している。

いまは、砕かれてゆく、砕かれ続けてゆく私の祈りは、痺れ、痛みのなか、いよいよ深められてゆく。そして、救い主イエス・キリストのご再臨を、再び来られるのを信じて待ち望む人生へと導き入れられている。今日のいまも、そのような人生の祈りの日々を送ることが許されている。……ただ、感謝あるのみ。



イエス彼に言ひ給ふ『われは道なり、眞理なり、生命なり。』（ヨハネ傳14:6b）

なんじらの^{としおゆ}年老るまで我はかはらず^{しら}白髪となるまで我なんぢら^{おほ}を負ん。
『我つくりたれば^{もた}擡ぐべし。我また負ひかつ救はん』（イザヤ書46:4／文語訳）

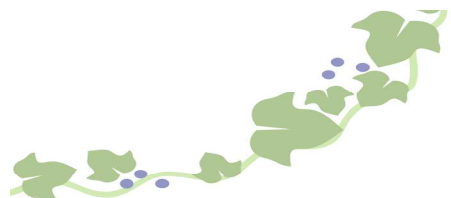
【短歌Ⅴ】 倒れても また起きあがるべし 主を仰ぎ
『我つくりたれば ^{もた}擡ぐべし。』

十字架の主イエス・キリストの^{あがな}贖いの^{みわざ}聖業という福音メッセージに出遭い^{みことば}聖言に触れて、聴いて、受け容れた。つらく厳しい歩行訓練を続け、生き延びてくることのできた。主イエス・キリストご自身の『われは道なり、眞理なり、生命なり。』の^{みことば}聖言が魂に届いてくる。傷ついて道に倒れ臥しても、そこは主の^{みて}聖手のなかである。主が助け起こして導いてくださる。『われ*つくりたれば^{もた}擡ぐべし』。歩くことは生きること、歩行訓練は生き抜くことであった。…*創りたれば^{もた}擡ぐべし…

『されど我らの國籍は天に在り、我らは主イエス・キリストの救主として
其の處より^{きた}來りたまふを待つ。』（ピリピ書3:20）

【短歌Ⅵ】 懐かしき 主への讚美を 口ずさみ
けふも歩みゆく ^{みくに}聖国への道

私にとって、^{みくに}聖国への道の『道』とは『リハビリの道』を意味している。難病の後遺症の痛みは通奏低音のように、絶え間なく続き、鳴り響いている。一日一日を生きてゆくその道において短歌を詠みつつ進みたい。リハビリの道を歩んでゆくときに、^{つら}辛い痛みの歩みの記録としての短歌を、詠んで^{きざ}刻んでゆきたい。



呻うめきは通奏低音の詩の五線音符に、昇しょう華かされてゆくのだと信じて、祈りつつ歩んでゆきたい。詠んでゆきたい。呻うめきは讚美しょうの歌へと昇しょう華かされ、止揚しょうされてゆくものであると信じている。いよいよ、さらに信じてゆきたい。はかない望うめみを抱きつつ、呻うめきは、呻うめきの祈りは、短歌作品になり得ると心に信じ期待して、喘あえぎながらも祈りつつ進む。そして、静かに詠み続けてゆきたい。証として主のお役に立つものになってゆくのだと信じて。作品が一首でも遺のこって光を放てばそれでよい。詠みびと知らずの歌として……。

短歌を詠むときに、推すい敲こうしているときに『我らの国籍は天にある。』という聖言みことばが鳴り響いてくる。最終楽章は、天のみくにの門をくぐりぬけてゆくシーン。そのときに奏かなでられる『我らの国籍は天にある。』という聖言みことばの五線音符は、私にとって生命いのちの光である。還かえりゆくところは定まっていて、天の国、天の神の国、懐みうでかしい主の聖腕みことばのなかである。フィナーレのシーンは、決まっていて、それは天の聖国みくにの真珠の門をくぐり抜けてゆくときの映像なのである。還かえってゆくところは天のふるさと、温かく懐みうでかしい主の聖腕みことばのなか、懐ふところのなかである。

『主をほめたたえよ。主にむかって新しい歌をうたえ、…。』

『ヤハウエをほめたたへよ、ヤハウエに對むかひて新しき歌をうたへ、…。』

(詩篇149:1a)

主の十字架の痛ましい手続きによって、救いの道が開かれた。聖霊げんざいに導かれて信仰を与えられ、主の道に導かれ、原罪打ち砕かれ、『新しき歌』を歌いつつ歩む地上の旅路……この地上にての今は、その一日一日の最後の旅である。天の聖国みくにへの道。主ご自身が『我は道なり、真理なり、命なり。』と仰あや有まっていてくださる。その道のことである。

歩行訓練に明け暮れる身としては、この聖言みことばによって励まされている。

『主を喜ぶことはあなた方の力である。』(ネヘミヤ記8:10)

そしてさらにつぎの聖言みことばによって、

『わたしはあなたがたの年老いるまで変わらず、白髪となるまで、あなたがたを持ち運ぶ。わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。』

(イザヤ書46:4／口語訳)

この聖言みことばは、ぐったりとなって横たわっていた入院生活時代の日々に決定的に、鮮やかに、生命いのちを吹き込まれた聖句である。横たわっている私を、主が背負って持



ち運び、救ってくださるのだ。文字通り。立て、いま立ちあがってリハビリに、歩行訓練に臨んで励むようにと、主の聖声^{みこえ}が聴こえてくる。文字通り歩行訓練の人生を、主がともにいて導いてくださる。運び導いてくださる。永遠^{みうで}の聖腕をもって。

『この故に明日のことを思ひ煩ふな。明日は明日みづから思い煩はん。』
(マタイ傳6:34)

ただ、ひとすじに、ひた向きに歩行訓練に励んでゆくのみ^{しび}。痺れ、締めつけ、痛み、突っ張り、鉛のような重圧感、不調の極み、辛さに苛まれながらではあっても前へ進んでゆくほかは無い。

祈りつつ、それが呻きの祈りであっても……。祈りつつ、歌いつつ歩いてゆくのみである。痺れ痛みを堪えつつ、祈りを深めて戴きながら、砕かれてゆきながら。…そのただなかでこそ、いよいよひと筋に、十字架の主を仰ぐのだ。復活の主を、天を仰ぎつつ、ひた向きに前へ。……ひた向きに。

【聖句】『しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。』(ピリピ3:20)の聖言^{みことば}を抱きしめて。

『しかし、わたしたちの国籍は天にある。』 (ピリピ書3:20)

『この日は我らの主の聖日なり 汝ら憂ふることをせざれ
ヤハウエを喜ぶ事は汝らの力なるぞかしと。』

『この日はわれわれの主の聖なる日です。憂えてはならない。
主を喜ぶことはあなたがたの力です。』 (ネヘミヤ記8:10b)

『我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるにあらず。
キリスト我が内に在りて生くるなり。』 (ガラテヤ書2:20a)

【短歌Ⅶ】 雲暗き日々にはあれど十字架の

主のみ恵みの深さ知る旅

聖書の活ける聖言^{みことば}によって、刻一刻と、悩みの黒雲が変貌して行って、至福の時間と空間へと高められ、創り変えられてゆく。めくるめく復活の、よみがえりの生命の光が、そのまま私の躬のうちに、輝きを放ちながら宿ってきていて、明るい未来へと繋がってゆくのだ。祈りのなかに、生命の光の一瞬一瞬の燦めき、その瞬間が輝きを増してゆく。

人生においては、実に予測がつかないほどの様々なことが起こってくる。しかし、天地創造の神が、十字架の贖いのみわざを成し遂げてくださって、私たち人類に救いの道を開かれた。歴史をも導かれる神は、われわれ一人ひとりの人生をも導かれる。

『主を喜ぶことはあなたがたの力です。』苦難の日々のただなかにある人生、しかし、そのようななかであってこそ神を見上げて、御前に 跪き、心砕かれて祈るのである。たとえそれが呻きの祈りであっても。…主ご自身が執り成してくださるのだ。ロマ書8:1-39《聖書重要暗唱箇所》のなか『御霊みづから言ひ難き 歎＝呻きをもて執成し給ふ。』（ロマ書8:26b）『御霊みづから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。』（ロマ書8:26b）と書かれている。主イエス・キリストご自身による、真に祝福に満ちた、呻きの執り成しがあるのだ。

天地創造の全知全能の『神』、救い主『イエス・キリスト』、慰め主『聖霊』の限りなき恩寵を感謝し讚美するのみ。

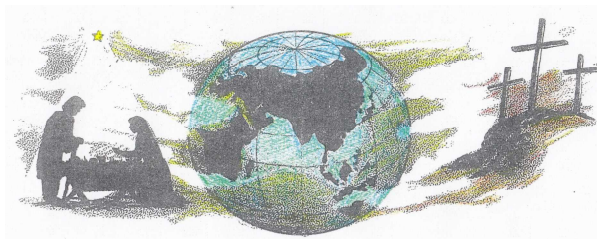
その主の聖恵を、いよいよ深く受け取りつつ、この人生を生き抜いてゆく。神の愛と憐れみをより深く悟らせて戴きながら、いよいよ更に祝福に満ちた、より深い人生の旅を続けてゆきたい。『わたしたちの国籍は天にある。』と、主ご自身が備えてくださった十字架の救いの道を。信仰の短歌を詠みながら…。

そして、よみがえりの主イエス・キリストのご臨在の輝きのうちに、永遠の生命の聖言が届いてくる。……『我は神に生きんために、律法によりて律法に死にたり。我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり。今われ肉體に在りて生くるは、我を愛して我がために己が身を捨て給ひし神の子を信ずるに由りて生くるなり。』（ガラテヤ書2:19-20）

復活の主がともに居てくださる。永遠の生命の主が私の内にいてくださる。……もうなにも要らない。

『かれは己がたましひの煩勞をみて心たらはん。』

『彼は自分の魂の苦しみにより光を見て満足する。』（イザヤ書53:11a）



『ゆりの花の調べ』

NTTDATA-OB 宮崎 聖藏

夕焼けの野なかに
透き通った^{きよ}聖い風の吹くころ
思いつめたように ゆりの花はひらく
めくるめく時空の流れを
くぐりぬけてきた
ゆりの花の調べは
深い^{めいそう}瞑想のなか
まぼろしのように たゆたうのだ

エルサレムのはずれの丘
神の^{いなづま}稲妻の^{ひらめ}剣は 閃き走り
天と地とを抉って
刺し貫いたその瞬間を
澄んだ瞳で ひたとみつめていた
という風情で
ゆりの花は静かに歌うのだ
復活の歌を

甦られたときの
最初の主の息づかいを
涙の祈りの果てに 聴き取ったかのような
静謐^{せいひつ}のなかに
愛と怒りの 十字架のもとに
(おまえはそこにいたのか
死と愛の斬り結ぶ丘に)

(そして聴いたのか、復活の朝に
近づいて来られる
永遠のお方の足音を)

いつのまにか
冷たくもなく熱くもなくなってしまう
わたしのうちに
十字架と復活の^{ほのお}火焰を
燃えあがらせようと
ゆりの花よ
幻の調べを そのささやきを
歌おうというのか

幻のように
永遠のいのちの^{ほのお}火焰を
わたしの魂の奥底に語りかけ

そして
祈りは奇蹟のはじまりであることを
このわたしに思い起こさせようと
燃えあがろうというのか
十字架の丘に

幻を呼んで
燃えあがろうというのか
永遠のいのちの調べのなかに



信仰生活で恵まれた人生に感謝

NTT-OB 原 朗

初めて教会の礼拝に出席したのは、高校を卒業しての1年目。私の住む千葉市の教育会館でスタンレー・ジョーンズ博士による米国宣教師による特別伝道会が開催された。どのようなイベントか知らず英語の通訳への興味から出席した。それは65年前のことだった。

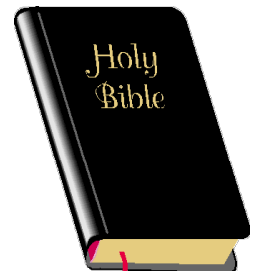


当時、私は松戸の東方に位置する白井米軍基地内特別電話局で英語電話交換手として働いていたので、通訳付の講演会に興味を持った。それがキリスト教の伝道集会とは知らずに講演の内容も良く理解できなかったが、集会は満席で雰囲気も明るかった。集会の意図するものがどういうものか不明であったが、一応決心カードに名前を書いて提出した。



後日、近所にあった日本基督教団千葉本町教会から、礼拝出席の案内をいただいた。そこは、クリスマス子供集会に出席したことから牧師は顔見知りなので、すんなりと礼拝に出席できた。その1年後に受洗し、今日に至る60年以上にわたる教会生活の始まりとなった。

高校生の時、英語の先生がバイブルという素晴らしい本を紹介し、本屋で買って読むように勧め、それまで少しずつ読んでいたので何の抵抗もなく、教会の集会に出席できた。牧師をはじめ教会員は家庭的で明るい雰囲気だったので居心地が良く、楽しかった。



学校を出て、米軍基地内の電話局で英語の電話交換手をしていたため、キリスト教の集会に興味湧き、なじめた。

基地内電話局の前にはチャペル（礼拝堂）があり、仕事が交替制勤務で日曜日でも働くことがあり、午前教会礼拝やミサなどに出席する米軍家族や兵隊がチャペルに入るのが電話交換室から見えた。

私は勤務時間中ではあったが、当直のGI（兵隊）の理解を得て、1時間の昼食休憩を使い、礼拝に出席できるよう案配してくれた。

英語の説教は最初難解であったが、余暇に日本語・英語対訳聖書を読み始め、徐々に大意を把握できるようになっていった。アメリカ人の兵隊と家族に囲まれ、ともに讃美歌を歌い、祈り、説教を聞いていた後、交わる。

遠くアメリカに留学、滞在しているかのような錯覚におちいり幸福な気分になった。仕事で使う英語の勉強にも大いに役立ったのである。

チャペルは大部屋には300人ぐらい収容できた。日曜の午前は部屋分けし、時間を分けてユダヤ教の式典、カソリックのミサ、プロテスタントの礼拝と聖餐などが執り行われる。

時にはアメリカ式のピクニックを基地内の緑の芝生の上で開催し、米兵とその家族、日本人従業員のクリスチャンや求道者が加わり、集会と国際交流の場となった。当時、珍しかったアメリカ式のピクニックは飲み食いの他、温かい交流の社交場となった。私にとり英会話を磨き、先進国の国際的社交の体験と研修の場になったのである。



基地内での仕事は交代制で3日目毎に宿泊勤務があり、深夜は米兵と二人で勤務に就く。暇な時に1時間でも2時間でも英語のみで会話と雑談の交流をした。

若いGI（米兵）はメスホール（食堂）からハンバーグなどの洋食を持ち寄り、ご馳走してくれた。日本に居ながらにして英語会話を働きながら学び、社交や米国文化を体験できて幸運。

そのような異文化体験の中で、キリスト教に触れて学び、信仰に入り、英語聖書研究会で伴侶と出会い、フランス語で仕事をする娘、英語で仕事をする息子などで、国際的なホームを営めて幸運である。我が人生は神さまから多分の恵みと祝福を受けたと感謝している。



暗唱聖句・ロマ書8章28節

神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。

28 And we know that all things work together for good to them that love God, to them who are the called according to his purpose.



敗戦後70年に思う

NTT-OB 本間 信一

1 私の戦争体験

① 二・二六事件

昭和11年2月26日東京が大雪に包まれた早暁^{そうぎょう} 陸軍青年将校によるクーデターが勃発した所謂二・二六事件です。当時小学生でしたが、その日、学校に行ったら「今日は休みだ」と聞かされ家に帰った記憶があります。

蹶起部隊^{げつきぶたい}は29日に鎮圧^{ちんあつ}されましたが、これ以後、軍部の政治介入が表面化し、日本は日中戦争（昭和12年7月7日）から太平洋戦争（昭和16年12月8日）へと泥沼の中に足を踏み入れました。（注6）

② 徴兵検査

昭和19年に徴兵検査を受けるため高田第五尋常小学校（現・目白小学校）まで行きました。



目白伝道教会日曜学校（1930年3月30日）

③ 受洗

技術系学生の徴兵延期も段々怪しくなり兵隊に取られる前にと思い昭和19年1月に洗礼を受けました。

④ 鈴木貫太郎内閣誕生

私の小学校の同級生・武藤徹君は昭和19年に東京帝国大学理学部数学科に入学していたが「鈴木貫太郎が首相になった時、数学科の先輩から『鈴木内閣は敗戦処理内閣だ。世界に向かって戦争終結意思ありと、アドバルーンを上げたことになる』と教えられた」と、最近の同君の著書で発見しました。（注3）

私が鈴木貫太郎首相の役割を知ったのは戦争が終わってかなりしてからです。同時代にこんな落差の有ったことに驚きました。

⑤ 八月十五日（昭和20年）

この日は御存知の通り敗戦の日ですがその日で忘れられないのは「戦争に負けた事よりも前日までの灯火管制が解除され煌々と電灯を点けて良い事になって嬉しかった事」で70年経っても忘れません。（注4）

2 それからの事

① 靖国神社へのA級戦争犯罪人合祀^{ごうし}

これについては各種の考えがありますが、周辺国に迷惑をかけ、日本国民に大きな犠牲を強い、時の天皇に嘘をつき、散散苦しめた。（注5）

従って少なくともA級戦犯分祀^{ぶんし}を待つ間は国家を代表する政治的権力者は公式参拝すべきではない。（注1）

② 特定秘密保護法

昨年12月施行されましたが、その範囲が曖昧^{あいまい}なので、政府にとって都合の悪い情報が指定されて隠されてしまう心配があるとされています。(注2)

3 これから どうすればよいか

先の衆院選では戦後最低の投票率を更新してしまいました。その後の地方選でも同様でした。

これは政治に対する不満の意思表示だと勘違いをしている向もありますが、棄権する事は、恰もあなたの御名前のみ記入、他は相手の自由に記入出来る所謂『白紙委任状』を渡すのと同様大変危険な事だと思います。

今こそ自分で考えて投票する必要があるのです。迂遠^{うえん}に見えても『懸念^{けんねん}の払拭^{ふつしよく}』には投票率向上が最も有効だと思います。

以上 2015年6月1日

- (注1) 安倍首相に伝えたい『わが体験的靖国論』
渡邊恒雄(読売新聞本社会長・主筆)
文藝春秋平成26年9月特別号pp254~264
- (注2) 『特定秘密保護法』
週間朝日 平成26年11月14日号pp126~129
- (注3) 『きらめく知性・精神の自由』武藤徹著
桐書房発行 2013年9月25日 p8
- (注4) 文春文庫『考証要集』秘伝NHK考証資料・大森洋平著
pp223~224「灯火管制」
- (注5) 中公新書 古川隆久著『昭和天皇』理性の君主の孤独
- (注6) 『一如の道』新訂第4版第1刷平成25年8月31日 p406
編著者 伊藤真乗 発行所 真如苑教学部
〒190-0023東京都立川市柴崎町1-2-13
TEL 042-527-0111



本間信一兄は、今年6月1日に
90歳のお誕生日をお迎えになり
ました。

おめでとうございます

永遠に神を賛美する

NTT-OB 久保田 信義

わたしは四十年の間、荒れ野であなたたちを導いたが、あなたたちのまとう着物は古びず、足に履いた靴もすり減らなかった。あなたたちはパンを食べず、ぶどう酒も濃い酒も飲まなかった。それは、わたしがあなたたちの神、主であることを、悟らせるためであった。(申命記29:45)

1948年小学校4年の同級生に「面白い処があるから行こう。」と誘われて行ったのが、宮崎市内にある日本基督教団宮崎清水町教会の日曜学校でした。

その後、中学校2年の4月に、日本ホーリネス教団静岡教会で R. R. Rice 宣教師を通して、「人もしキリストに在らば新に造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。」(後コリント5:17/文語訳)の聖言を信じて、静岡市内を流れる安倍川で洗礼を受け、クリスチャン生活を始めました。

永遠からすれば、私の今日までの70数年の生活は一瞬の長さですが、人間的には多くの涙と喜びを学ばせて戴きました。総合的には前掲の聖言を神さまは私自身に体験させて下さったと受け止めています。

私は77歳となり、父より22年も長生きさせて戴きましたが、今時点

- ①この世で私に与えられた時間は短くなっている事
- ②この世での歩みが終わった後、神さまの前に立っての審判を受ける。

そして、主の執り成しにより私の全生涯の罪の赦しを戴く。(現在時点の私の稚拙な個人的理解です。皆さまのご指導をお願いします。)

③審判後、永遠に神さまを礼拝し賛美する事が、最重要テーマです。

このテーマに対しての的確な内容は、自分の様な愚かな者には解りませんので、聖書に教えて戴きたいと思います。

- ①今後、どのような事が身に起こって行くのか一瞬先は不明ですが、私のいのちは神さまの聖手の中にありますので、日々、主を礼拝して歩み、身体的・精神的・社会的・靈的に健康が与えられますようお祈りをする。
- ②「わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。」(ロマ14:10,12)。「わたしたちは皆、キリストの裁きの座の前に立ち、善であれ悪であれ、めいめい体を住みかとしていたときに行ったことに応じて、報いを受けねばならない。」(Ⅱコリント5:10)が成されると信じます。

私の全生涯の内容に付いて神さまにご説明をします。私自身は、忘れていた部分もありますので、神さまが全部を見せて下さると思います。その内容に色々な場面があるとします。

1 場面は、「見よ、神の幕屋まくやが人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。」(黙示録21:3, 4)です。

1 場面は、ルカによる福音書19章15～24節にありますムナ(ミナ)の譬え。

1 場面は、全生涯における私の保身や中心性、不完全性から来る人を傷つけたり、神さまの前に立っている事は不可能である程恥ずかしく、又、相手の方に申し訳なく、自分で直視する事は出来ず、あるいはその罪悪感に圧倒されて気絶して倒れるような内容です。私は、このままでは永遠の滅びである地獄行きであります。そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ23:34)の私の生涯の罪の赦しを十字架の贖いを通して神さまにして下さった時に、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)の故に、神さまは、私のすべての罪を赦し、永遠の命の溢れる天の国へ入れて下さる。

③私は、詩編136編と150編の内容に導かれ、神さまに永遠に賛美をささげる。

この詩編の内容に私自身が導かれる事を信じ、抜粋します。

恵み深い主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
 神の中の神に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
 主の中の主に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
 ただひとり／驚くべき大きな御業を行う方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。
 英知をもって天を造った方に感謝せよ。慈しみはとこしえに。



(詩編136:1～5)

ハレルヤ。聖所せいじよで神を賛美せよ。大空とりでの岩で神を賛美せよ。
 力強い御業みわざのゆえに神を賛美せよ。大きな御力みちからのゆえに神を賛美せよ。
 角笛つのぶえを吹いて神を賛美せよ。琴と豎琴たてごとを奏でて神を賛美せよ。
 太鼓に合わせて踊りながら神を賛美せよ。弦をかき鳴らし笛を吹いて神を賛美せよ。
 シンバルを鳴らし神を賛美せよ。シンバルを響かせて神を賛美せよ。
 息あるものはこそって主を賛美せよ。ハレルヤ。



(詩編150:1～5)

使用聖書：「新共同訳」

宝はキリストの中に隠されている

KDD-OB 小松 有也

御言葉を考えていると、ときたま小さな発見をして大きな喜びをいただくことがあります。つい先日、ある集会である兄弟が自分のことを、ああでもない、こうでもないと、いろいろ言っていました。

その兄弟とは長く親しい交わりがありますので、気になって祈ったり、考えたりしていたところ、マタイ13章の「畑に隠された宝」の譬えに思い当たりました。

いったいあの畑は、自分の畑だったのだろうか、他人の畑だったのだろうか。それは、予想どおり他人の畑でした。次のようにあります。

天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。 (マタイ13:44)

《その畑を買う》とありますから、自分の畑ではありません。ところで他人の畑に宝を見つけるとは不思議な感じがします。この人は小作人だったのでしょうか。それなら持ち物をみんな売りはらっても、その畑を買うだけの資金は得られないのではないのでしょうか。

まず宝が、自分の畑になく他人の畑にあったということは、非常に重大なポイントだと思います。なぜなら、自分の畑（自分の中）に宝を見つけようとして、一生懸命努力をしているクリスチャンが多いような気がするからです。いくら自分の畑に宝を求めても、そこにはありません。

仏教ならば「一切衆生悉有仏性」といって、みんなが本来仏性を持っているわけですから、自分の畑に宝を見つけるでしょう。

しかし、キリスト信仰では、自分の畑に宝を見つけることはできません。せいぜい山のような罪のがらくたが見つかるだけでしょう。それでもなお、なぜ見つからないのかと、必死になって努力している人もいるでしょう。私もそういう無駄な努力を長くしてきました。コロサイの2章3節に、

キリストのうちには、知恵と知識との宝が、いっさい隠されている。

とあります。つまり、宝はキリストの中に隠されているわけで、私にはありません。それを見つけることは、《喜びのあまり》とあるように、大きな大きな喜びです。

ところで、この畑を買うための資金はどうなるのでしょうか。キリストという畑を買う

には莫大な費用がかかるのではないのでしょうか。これも心配することはありません。イザヤ書55章1～2節に次の御言葉があります。

さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。
 来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。
 なぜ、あなたがたは、かてにもならぬもののために金を費やし、飽きることもできぬもののために労するのか。わたしによく聞き従え。
 そうすれば、良い物を食べることができる。最も豊かな食物で、自分を楽しませることができる。

金を出さずに、ただで買って、良いものを食べて、楽しむことができるという約束です。キリストは、「わたしをとって食べなさい」と、ご自身をただで与えつくしてくださいました。

すべての宝はこのキリストにあります。自分にはありません。ただキリストによく聞き従う必要があります。

ところで、宝を自分の畑ではなく、他人の畑に持つという考えは、大きな技術革新をもたらしました。インターネットの発達によって、音楽、映画、講演などの資源は、すべてセンターのほうに蓄え、必要なときにそのつど送ってもらって鑑賞するという方式です。スマホやタブレットの発達は、この考えに基づいています。



映画などの資源だけではありません。音声認識も、音声をセンターに送って、認識結果を送り返してもらっています。この音声認識の能力も非常に進んでいます。

こうして、端末装置であるスマホやタブレット自体の機能や記憶は、極力減らして身軽にし、すべてをセンターのほうにお任せするという技術思想が、驚くほどの技術革新をもたらしました。パウロは、第2コリントの6章10節で、

何ももたないようであるが、すべての物を持っている。

と言っています。

自分には何も持たず、いっさいをキリストに持つ信仰こそ、身軽でさわやかな信仰生活を与えてくれるものと思えます。

ただ必要なのは、主キリストとの親密で大容量なチャンネル、つまり御言葉と御霊にある親密で豊かな祈りと交わり、そして御言葉に聞き従う単純な幼な子の信仰だと思えます。

柳家小三治の衣装哲学とカルヴァンの衣装神学

NTT-OB 有馬 七郎

黒い衣装は、古今東西を問わず、人びとから注目されてきた。

私の脳裏に焼き付いている黒い衣装は、シャバットの朝シナゴークに向かつて、エルサレムの通りを足早に歩いて行くユダヤ教徒たちの姿である。1990年の乾期に一ヶ月滞在していた時、私はしばしば彼らを目撃した。

宗教的な根拠に基づいて黒い衣装を着る慣行は、キリスト教にもある。

黒い服に身をつつむという聖職者の姿は、正教会の伝統の大切な部分で、聖職者は必ず守るように指示されて、聖職者になるときに署名する宣誓書の中にあるだけでなく、教会規定の条項のひとつともなっている……。黒い衣は、この世に対して日々死につつ、キリストの中に日々よみがえりつつあるという確信の表明である。

(高橋保行『ギリシャ正教』)

世俗でも、「裁判官はなぜ黒い衣装をまとっているか？」ということが話題になる。それに対しては、次のような答えが用意されている。

〔裁判官は〕男女を問わず、全員黒い衣装をまとっている……。なぜ黒かというと、「どんな色にも染まらない」「どんな意見にも左右されない」という意味だそうである。

(坪内忠太『脳にウケるおもしろ雑学』)

興味深いことに、黒い衣装を着ることにこだわっている落語家がいる。

柳家小三治師匠はテレビ対談で、『私が高座に上がる時に黒い紋付きを着るのは、「私」を消すためです。そして、いつも一番下からものを見るように心がけています』と語った。「私」を消すことと、一番下からものを見るという態度は、何とも素晴らしい！ 彼は自らの「座右の教訓」について、こう語っている。

ボクの師匠は、「人物になり切れ」とよく言う……。基本は、隠居は隠居らしく、八つあんなは八つあんならしくだろう。前座のうちから枕に漫談風を吹かしたり、嘶とのバランスも考えずセコなギャグや入れごとをするなどは間違っている。

(柳家小三治『落語家論』)。



『柳家小三治の仕事』(DVD)でも小三治師匠は、「高座には98% 黒の紋付きで上がります。本人が姿を消して登場人物が生きて来るように、小三治が消えて芸の中の人物が生きて現れるようにするためです」と語っている。また、「演目は高座に上がってから決めます。世の中の流れ、天候、客席の雰囲気、客層、体調などを考慮して決めます。つまり、即席の芸を披露するわけですから」とも語っている。

小三治師匠が黒い紋付きを着て高座に上がり、「私」を消し、登場人物になりきるように心がけ、即席の芸を披露する態度に、私は衝撃を受けた。小三治師匠の衣装哲学は宗教改革者ジャン・カルヴァンの説教観を髣髴とさせて余りあることに気付いたからである。

まず、小三治師匠が高座で「私」を消すように、カルヴァンは生涯を通して説教壇に「私」を持ち込むことを忌避した。

カルヴァンは聖書の福音の代わりに、自分自身の考えを説教する人びとを極度に嫌悪し、「私たちが説教壇に上る時、私たち自身の夢や空想を抱いて上ることができると考えてはならない」と言った。
(T.H.L. Parker, *Portrait of Calvin*)

小三治師匠が高座で登場人物になりきるように、カルヴァンは説教において自分の意見を述べず、神の言葉を伝えることに傾倒した。

聖書は「神の言葉」であるから、説教者はその言葉を伝える謙虚な僕である重責を担っていた。したがってカルヴァンは、自分自身の意見を聖書テキストの中に持ち込まず、「純粋な言葉」の「純粋な教え」を伝達することに専念した……。カルヴァンの目的は、人間である作者が聖霊に導かれて意図した「著者の精神」を説明することだった。
(Susan Schreiner, "Calvin as an interpreter of Job")

カルヴァンは神の言葉をただ単に語るだけでなく、それを聞く信者たちが日々の生活に生かせるように配慮した。

・カルヴァンは聖書テキストそれ自体が読者に示しているままの表面的な意味に焦点を合わせた。彼はただ単に興味をそそる手掛りを提供するに過ぎない、テキストの背後にあるものを探求することを考えていなかった。

カルヴァンは、しばしば層状の解釈を提供した。すなわち、聖書テキストに関する詳細な説明から始めて、そのテキストを読者の生活に適用させた後に、再びテキスト



そのものに戻って詳細な説明を行った。彼はそのようにして、過去と現在の間に、テキストと読者の間の隔たりに、類似を用いることによって橋を架けた。また時々、預言と成就の間の隔たりに、弁証法的論証を駆使して橋を架けた。

(David C. Steinmetz, "The Theology of John Calvin")

すなわち、カルヴァンは説教対象の聖書テキストを現世の時事的事象に敷衍させる必要性を強調し、しばしばそれを自ら実践したのである。

小三治師匠が当日の雰囲気にもふさわしい演目を選んで即席の芸を披露するように、カルヴァンは生涯を通して即興的に — 教え、勧め、叱るために生き生きと — 説教した (Richard A. Muller, *The Unaccommodated Calvin*)。カルヴァンの後継者テオドール・ベザが 1564 年に出版した伝記の現代版 *The Life of John Calvin* の挿絵 (サン・ピエール聖堂におけるカルヴァンの説教) を見ると、カルヴァンは欄干で囲まれただけの高い壇上から身を乗り出し、手ぶらで説教している。ベザは、カルヴァンの説教の特徴を次のように要約した。

ファレルは一種の精神的崇高性において他に抜きん出ている。彼の説教を聞く誰もが震え上がり、彼の熱烈な祈りを聞く者はほとんど天に運ばれるような感じを抱いた。ヴィレは魅力的な雄弁家だったので、彼の弁舌は聴衆を魅了した。カルヴァンは最も説得力のある感情をもって、聞き手の精神を満たしてやまなかった。

(Theodore Beza, *Selected Works of John Calvin*)

カール・バルトは、カルヴァンが説教ばかりでなく、説教直後の長い祈りも感情を込めて、即興的に行ったことに注目した。

カルヴァンが言うように、祈りには感情が入らなければなりません。しかしこの感情は、私たちの精神にとって、放浪性の口実とされてはなりません。カルヴァンが説教の終りに行くことを習慣にしていた即興的な祈りは、その威厳ある一貫性において注目に値します。

(Karl Barth, *Prayer*, 50th Anniversary Edition)

さて、黒い紋付きに象徴される小三治師匠の衣装哲学は、高座において「私」を消し、登場人物になりきり、即席の芸を披露することに貢献している。他方、カルヴァンは説教壇に「私」を持ち込まず、神の言葉を語ることに傾倒し、即興的に説教した。それらの背後に、臨在のキリストを着るというカルヴァンの衣装神学が隠されていたことを見逃してはならないだろう。



私の生活の中心

KDDI-OB 佐保 靖幸

私は聖書の詩編の音読を、生活の中心に置いている。おおまかに言って、1ヶ月で百五十編を読み進むことを、一応の目安としている。

量的に言って、百五十編、割、三十日で一日に約五編ということではない。生活習慣や買い物、散歩、医院通い等々で、日々の忙しさには差があり、又、詩編それ自体にも、一編の長短があるからです。従って、一編の音読も出来ない日もある。従って読める時に読むことの出来る量を、なるべく「ゆっくりと、祈る心で」読むことにしている。だから一日二回読む日もある。

旧約聖書続編を含まない聖書では、詩編は開き易い位置にある。聖書を両手ではさんで持って、その厚さの真ん中を開くと、そこが詩編の位置である。だから私は、詩編は聖書の心の中心にあると思って読んでいる。

詩編は又、人間の心の歴史と神への感謝、賛美の総てであり、又その中心的表現であると思っている。

読む時に注意している事は、「敵」とか「悪魔」とか「怨み」や「残虐な感情・行」の表現に出会う時である。その時は、「難病の源や、現世界の戦争とその難民等」に適宜、置き換えて読んでいる。

詩編は、聖書の心の中心であると書いたが、詩編は又、癒しと慰めの薬でもあります。霊肉に共に働く良薬・密薬です。

近況の報告

最近の四～五年は特に、山奥での生活環境やストレス、年齢からくる体調の変化が大きくなり、「かかりつけ医」様のお勧めもあり、総合病院（中国労災）近くへの転居を繰り返し、現在地にやっと「おちつき」を得た次第です。

鈴木さん、甫足さん、露久保さん……等懐かしい方々との職場での聖研の昔を思い出しながら福島さんからのお便りを楽しみにして。



主は羊飼ひ、
わたしには何も欠けることがない。
主はわたしを青草の原に休ませ
憩いの水のほとりに伴ひ
魂を生き返らせてくださる。(詩23:1-3)

アブラハムが義とみなされた根拠

NTT-OB 福島 勲

それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた。(ロマ4:3)

この聖句を読む時、私は、信仰の父とも呼ばれるアブラハムは神を恐れる人、敬虔な信仰の持ち主、神から告げられた通りに従うことを喜びとした人。そのような人物であったので、神はアブラハムを義とみなされた、と解釈していました。

しかし、私のこの解釈であれば、パウロがロマ書第1章18節から3章20節まで延々と述べている異邦人の罪、ユダヤ人の罪、そしてすべての人はみな罪の下にあり、「義人はいない。ひとりもない。…」との断罪を無視することになりかねません。

さらに、ロマ書第3章21～31節の「人が神に義と認められる根拠」は「キリスト・イエスによる贖い、なだめの供え物となって贖いの血を注がれたキリスト」だけであるとの説明をすべて無にしてしまうことにもなりかねません。

第3章21節からの福音で「我は誇らん、ただ十字架を」と主イエスを賛美していたのに、第4章後半に至ると一転、愚かな私は「アブラハム賛美歌」を歌ってしまうのです。

アブラハムが私たちの模範となるすばらしい信仰の人であることは間違いありませんが、神に義と認められる「根拠」は「彼の行い」ではありません。ロマ書3章23節「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」の「すべての人」の中にアブラハムも含まれるからです。アブラハムも神に義と認められるには「キリスト・イエスによる贖いに基づく信仰」があったはずで

義認の根拠を示す聖句

しかし、そのことを確認する聖句はあるでしょうか。ヨハネ福音書で主イエスが語っておられる次のみことばが私たちを助けます。

あなたがたの父アブラハムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜んだのです。(ヨハネ8:56)

この聖句で「わたしの日」とは何でしょうか。主イエスのどんな日でしょうか。主イエスがアブラハムの罪のためにも贖い主となられる日ではないでしょうか。主イエスは、ご自身こそがアブラハムが待望していた贖い主であると語っておられます。

さらにガラテヤ書第3章16節で「ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。…その方はキリストです」とあります。

アブラハムは自分の罪を贖って下さるキリストを示され、「キリストのその日」を見ることを思って大いに喜んだのです。

アブラハムが義とみなされたのは何に基づいてでしょうか。何を根拠にしてでしょうか。彼の信仰でしょうか。信仰は神の義を受け取る器です。信仰なしに神に義とみなされることはできませんが、信仰はあくまでもキリストにある神の義を受け取るための通り道にすぎません。



義とされる「根拠」はアブラハムの信仰ではなく、彼の信仰の対象である贖い主キリストです。アブラハムは、神が将来、自分の子孫から贖い主を生まれさせて下さるとの約束を信じたのです。「はるかにそれを見て」いたのです(ヘブル11:13)。

「アブラハムは神を信じた」との聖句の「神を」の中に「神が与えて下さる贖い主キリスト」を信じるという内容が含まれていて、彼は義と認められたのではないのでしょうか。

私の愚かさは、ロマ書第4章を読む時、パウロがその前に1章、2章、3章と丁寧に説明してきたこと、どんな人もキリスト・イエスによる贖いを信じる信仰なしには神に義と認められる道はないとの説明をすっかり抜かして読んでいたことです。

パウロの説明は非常に論理的です。1章17節の後、一足飛びに4章に入っていません。アブラハムも含めて、すべての人は罪の下にあること、そして人が神に義と認められる根拠は、「キリストによる贖い、なだめの供え物となられたキリスト」との十分な説明の後に4章に入り、義とみなされた実例としてアブラハムとダビデを持ち出しているのです。

キリストの十字架の贖いに基づいて

感謝なことに、ユダヤ人であれ、異邦人であれ、すべての人が神に義と認められる根拠、その救いのみわがが二千年前にイエス・キリストの十字架において成就しました。

キリストの十字架以前の人々(旧約聖書時代の人々)はアブラハムも含めて、クレジット払い(後払い)で義認を得たと言えるでしょう。キリストは死んでおられなかったが、神はキリストが死なれることを知っておられたので、キリストの未来のみわがに基づいて信じる人々を義とみなされました。

アブラハムの罪の負債は彼より約二千百年後のキリストの十字架での後払いでした。ヨブも同様でした。

私は知っている。私を贖う方は生きておられ、
後の日に、ちりの上に立たれることを。(ヨブ記19:25)

しかし、今日の私たちはどうでしょうか。私たちの罪の負債は後払いではありません。二千年前にすでに十字架で支払われました。ですから、ありがたいことに「前払い」であり、「(支払い済み)遺産相続」(ヘブル9:15)と呼んでもよいのでしょうか。何と感謝なことでしょう。

新約聖書の中心とも言えるロマ書3章21~25節(23節を除く)をいつも忘れないように、聖歌168番「いざひとよ」のメロディに合わせて歌にしてみました。

A toi la gloire (F)
(Thine is the glory)
E. BUDRY, 1884 (UN)

ロマ3章21～25節の歌 (聖歌168番のメロディ)

TOCHTER ZION
Arr. from G. F. HANDEL, 1685-1759

♩=120

1. いざひとよほめまつれよみがえ
① しかしいまはりっほうとはべつにかみの
りししよりの主みよ'はかには
ぎがしめされたしかもりっほうと
なにもなくただころものころの
よげんしゃによってあかしされてしめされ
(おりかえし)
み } いざひとよほめまつれ
た }
か~みのぎがしめされた

①しかし、今は 律法とは別に
神の義が 示された
しかも律法と 預言者によって
あかしされて 示された
いざ人よ ほめまつれ
神の義が 示された

②イエス・キリストを 信じる信仰
信仰による 神の義
そはすべての 信じる人に
与えられる 差別もない
いざ人よ ほめまつれ
信じる人に 与えらる

③ただ、神の 恵みにより
キリスト・イエスに よる贖い
キリストによる 贖いのゆえ
価なしに 義とされる
いざ人よ ほめまつれ
価なしに 義とされる

④神はキリスト イエスを
その血による 信仰による
なだめの供え 物として
公に 示された
いざ人よ ほめまつれ
公に 示された



《2014年度活動報告》

○第182回合同集会

日 時 2014年4月19日(土) 午後2時～5時

場 所 御茶の水クリスチャンセンター 3F307号室

講 師 榊原 寛 先生(ワールド・ビジョン・ジャパン理事長)
(お茶の水クリスチャンセンター副理事長)

出席者 14名

○第183回合同集会

日 時 2014年7月19日(土) 午後2時～5時

場 所 御茶の水クリスチャンセンター 3F307号室

講 師 浜田 耕司郎 兄(キリスト同信会伝道者)

出席者 13名

○2014年7月19日(土)

機関誌「いずみ」第52号発行(発行部数100部)

○第184回合同集会(一泊研修会)

日 時 2014年11月13日(木)～14日(金)

場 所 奥多摩福音の家(東京都奥多摩町)

参加者 7名

○第185回合同集会(新年聖会)

日 時 2015年2月7日(土) 午前11時～午後3時

場 所 ハレルヤ摂理館(柳瀬川キリスト集会)(埼玉県志木市)

講 師 平野 友信 兄(柳瀬川キリスト集会)

出席者 10名

○第186回合同集会

日 時 2015年4月18日(土) 午後2時～5時



場 所 御茶の水クリスチャンセンター 3F307号室

講 師 福島 雅則 先生(日本ホーリネス・横浜いずみ教会牧師)

出席者 13名

NTT・KDDI合同聖書研究会
(第184回合同集会)

一泊研修会・スケジュール表

時 間	11月13日(木)	11月14日(金)
06:00		起床・洗面
06:30		第3回集会(06:30-07:30) 司会/奨励:伊藤兄 (狭い門、命にいたる門) お祈り(全員)
07:30		自由時間
08:00		朝食(08:00-08:30)
08:30		チェックアウト (荷物は集会室に移動)
09:00		第4回集会(09:00-11:00) 司会:甫足兄 奨励:原兄・藤森兄・甫足兄 (愛に生きる喜び) (神に捕らえられた約70年の信仰生活を振り返って) (終末の再臨に備えて) 交わり(全員) (聖研の今後の進め方など)
10:00	<p>【持ち物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●聖書/讃美歌/筆記用具 ●洗面用具 ●パジャマ/タオル/バスタオル ●健康保険証(写) 	11:30に出発 (奥多摩湖へ向かう)
11:00		12:00 奥多摩・水と緑のふれあい館着 ◎パノラマレストラン・カタクリの花にて昼食 ◎奥多摩3Dシアターにて奥多摩の自然を体感
12:00		14:00 ふれあい館を出発 14:20奥多摩駅着/14:37発の電車に乗車
13:00	福音の家に集合/チェックイン (新館1F集会室で受付・茶菓サービス) 自由時間(休息/散策等)	
14:00	第1回集会(15:30-16:30) 司会:原兄/奨励:鈴木兄 (主が語られた主の再臨)	
15:00	自由時間	
15:30	夕食(17:30-18:15)	
16:00		自由時間
16:30	第2回集会(19:00-21:00) 司会:久保田兄 奨励:福島兄・久保田兄 (聖書における神の国・天国とは) (この世での歩みと召天後) 交わり(全員)	
17:30	入浴(本館1F奥) (21:00-22:20)	
18:15	就寝(22:30-06:00)	
19:00		
20:00		
21:00		
22:30		

2014.10.30現在



上段：久保田兄と藤森兄 下段：左から伊藤兄、原兄、鈴木兄、甫足兄、福島兄



第184回合同集会
一泊研修会(於:奥多摩福音の家)
2014年11月13-14日

見よ、兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。(詩篇133:1)



左から伊藤兄、久保田兄、福島兄



左から伊藤兄、藤森兄、久保田兄



奥多摩湖の紅葉を眺める

第183回合同集会

2014年7月19日 会場：OCC307

メッセージ：聖書とわたし（Ⅱ テモテ3:15-16）

また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。

聖書はすべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。（Ⅱ テモテ3:15-16）



鈴木兄



講師：浜田耕司郎兄



原兄



露久保兄



本間兄と小松兄



久保田兄



有馬兄



村上兄



伊藤兄



浦足兄



新井兄

新年聖会(第185回合同集会)

2015年2月7日 会場：ハレルヤ摂理館

メッセージ：わたしの心は常にここにある（歴代志下7:11-18）

わたしの民が、もしへりくだって、祈って、わたしの顔を求め、その悪い道を離れるならば、…その罪をゆるし、その地をいやす。今この所にささげられる祈りにわたしの目を開き、耳を傾ける。……わたしの目とわたしの心は常にここにある。（歴代志下7:14-16）



左から鈴木兄、小松兄、平野兄



講師：平野友信兄



田中兄と甫足兄



甫足兄と露久保兄



平野兄と新井兄



新井兄と田中兄

第186回合同集会

2015年4月18日 会場：OCC307

メッセージ：天国の原理（マタイ20:1-16）

天国は、ある家の主人が、自分のぶどう園に労働者を雇うために、夜が明けると同時に出發して行くようなものである。……わたしは、この最後の者にもあなたと同様に払ってやりたいのだ。（マタイ20:1, 14）



久保田兄と田中兄



講師：福島雅則先生



左から露久保兄、甫足姉、新井兄



鈴木兄



小田兄



甫足兄



有馬兄



福島兄と小松兄



村上兄



接待をしてくださる甫足姉

主にある兄弟姉妹のスナップ写真集



左から原兄、福島兄、伊藤兄
(奥多摩福音の家で)



インマヌエル小松キリスト教会の皆さん



本間信一兄



鈴木欽也兄



西本修三兄



佐保靖幸先生



山田磨先生ご夫妻
(みずほ台キリスト教会献堂式)



加納孝代姉(活水女子大・下の驛驛)と貞彦兄ご夫妻
(五島列島の福江島の教会の前で)



藤森正一兄



藤川昌也兄



活水女子大学のキャンパス
赤い屋根はキリストの贖いの象徴の色かな？

御国(みに)を思う真心は
世のみどり野にわきいでて
生ける泉の源と
流れそそがんよろず世に
(活水学院の校歌の4節より)

活水女子大学ショートフィルム
「おらんだ飯をのぼって」
<https://www.youtube.com/watch?v=QCZ09RiAPEQ>
(素敵な映像が観られます！)

《会計決算報告》

(2014.4.1～2015.3.31)

1. 収入の部 (単位円)

合同集会会費(3回)	32,000
プール資金(2615口)	261,500
機関誌「いずみ」第52号代(52部)	18,800
一泊研修会(奥多摩・福音の家)	56,000
特別献金	40,000
利息収入	107
前年度よりの繰越	389,329
計	797,736

2. 支出の部

合同集会講師謝礼(3回)	96,000
機関誌「いずみ」第52号発行費(100部)	18,000
合同集会会場費(3回)	31,060
合同集会茶菓代(4回)	15,877
事務費(封筒、集会案内コピー代等)	6,427
通信費(集会案内、いずみ送料等)	25,240
一泊研修会(奥多摩・福音の家支払い)	55,944
新年聖会(ハルヤ摂理館弁当代)	7,816
特別献金(上野教会会堂建築献金)	50,000
計	306,364

3. 翌年度への繰越

翌年度への繰越	491,372
---------	---------

[特別献金は、教団・上野教会(藤森正一兄の所属教会)へ会堂建築献金として献金いたしました]

上記のとおり、2014年度の会計決算を報告いたします。

2015年4月18日

NTT・KDDI合同聖書研究会

代表幹事 鈴木 欽也

会 計 露久保 定吉

《個人消息》

◎ 豊川 修司先生より

「高島平キリスト教会の牧師は定年のため年内に終えると思いますが、牧師不足の折、また他教会より働きの要請を受けています。まだまだ用いていただければ幸いです」

◎ 加納 貞彦兄より

「私はNTT32年間勤務後、早稲田大学に12年間いて、2012年定年退職。現在はバイリンガル（日英）で聖書を読む会（早大YMCA・早稲田奉仕園共催）のリーダー。くにたち聖書集会にはこれまで通り参加。妻が長崎にあるキリスト教系の活水女子大学（学長）勤務のため、長崎を本拠にして、長崎でも「東山手で聖書を読む会」を仲間と始める。東京の自宅は2015年1月5日より晴海に転居」

◎ 合同聖書研究会出身献身者（牧師先生等）のお働きと健康のためにお祈り下さい。

- ・ 山田 磨 先生 （イマヌエル小松キリスト教会現役牧師引退）（石川県能登町在住）
- ・ 佐保 保幸先生 （聖公会牧師引退）（広島県呉市在住）
- ・ 伊藤 節 先生 （ホーリネス本部付牧師）（つくばみらい市在住）
- ・ 豊川 修司先生 （改革派高島平キリスト教会牧師）（埼玉県三芳町在住）
- ・ 鈴木 勉 先生 （小松ベタニヤ福音教会牧師引退）（石川県小松市在住）
- ・ 福島 勲 兄 （所沢教会福音センター代表）（埼玉県所沢市）
- ・ 加納 貞彦 兄 （バイリンガル（日英）で聖書を読む会代表）（長崎市在住）
- ・ 武田 英夫先生 （日本基督教団教師引退）（横浜市港北区在住）
- ・ 鈴木 孝弘先生 （松山福音センター牧師引退）（高知県土佐清水市在住）
- ・ 村上 透 兄 （神学生）（神奈川県座間市在住）

◎ 合同聖書研究会のメンバーもご多分に漏れず高齢化が進んでいます。

高齢のため体調を崩しておられる方が多勢おられます。

会員の皆様の信仰と健康が守られますようお祈り下さい。



「逋信省聖研発足70年記念号」への投稿のお願い

来年度は、15頁に記載の通り、逋信省聖研発足70年記念号を発行予定です。下記要領により「いずみ54号」の原稿を、広く全国の兄姉に募集致します。証し、詩、短歌、近況報告等（スナップ写真だけでも歓迎）をお寄せ下さいますよう、何卒、よろしくご協力をお願い致します。



1. 投稿方法

B5版横書き・2ページ程度に入る長さで、手書き、又は Microsoft Word形式、又は一太郎文書形式、又はテキストファイル形式でお送り下さい。

2. 原稿の送り先

①電子メールアドレス（Eメールで添付書類として）

fukuint@hotmail.com 又は fukuint@gmail.com 福島 勲

②手書き（郵送で）

〒359-0045 所沢市美原町1-2926-30 福島 勲

3. 原稿受付期間

2016年4月1日より5月31日まで

4. 発行予定日

2016年7月末日 NTT・KDDI合同聖書研究会の開催時

編集後記

私たちの救い主、主イエス・キリストの尊い御名を賛美申し上げます。

皆様のお祈りとご協力により「いずみ」（第53号）を発行することが出来ました。心より感謝致します。

年末に、インターネット上でカラーレーザープリンターが驚きの価格15,000円で売られていることを知りました。自動で両面印刷も高速で可能とのこと。値段が一桁違うのではないかと思いつつも、これを「いずみ」の印刷に利用できないかと考えました。



「安かろう、悪かろう」ではないかと半信半疑ながら、年明けに沖データのショールームで、昨年の「いずみ52号」のデータを普通紙に両面印刷してみました。その結果は驚きの連続でした。

インクカートリッジも超割安なりサイクル品を使って、この53号の発行となりました。インターネットも通信機器類も大きな進歩を遂げてきております。

来年の70年記念号ではさらに多くの懐かしい兄姉のお顔と原稿を紹介できればと願っております。

主にあって皆様の信仰と健康が守られ、ご活躍なさいますようお祈り致します。

（2015年7月 福島）